

# 聴覚障がい者を救う

## 福井県立武生高等学校 探究文科 3年

### Abstract

We researched what elements of images let the hearing-impaired people understand their contents. We looked into some previous studies and conducted the questionnaire for about ten organizations of hearing-impaired people. We found that subtitles are the best way for them to understand the contents of images. Then we focused on it and researched about the relationship between font style and readability of subtitles. We conducted the other questionnaire for eleventh grader students of Takefu High School and had them choose the easiest one to read from Gothic, Textbook, Ming-cho, and Kaisho fonts. We found that the Ming-cho font is the easiest to read.

### 1 はじめに

現代社会において、映像は世界の動向を知るための手段として大きな役割を果たしている。では、今日の社会において、この、世界をリードし、生きていく上で避けては通れないほど大きな存在になりつつある映像情報とすべての人々が平等に付き合っているだろうか。内閣府などの発表によると、国内における身体障がい者・児（在宅）の総数は、2016年時点で約428万7000人であり、そのうち聴覚障がい者・児（在宅）の総数は31万2000人にのぼる。また、一口に聴覚障がいといっても、様々な種類があり、その中でも加齢性難聴は、年齢を重ねるにつれて耳が聞こえにくくなっていくものである。つまり必ずしも私たちと関係のない話ではない。このような現状を知った私達は、身近である聴覚障がいという問題に注目し、すべての人が平等に楽しめる映像を作ることを目的とし、研究を行っていくことを決めた。

そこでまず私達は、「聴覚障がい者の内容理解につながる映像の要素とは」という問いを立てた。さらに、具体化するために「内容理解につながる要素」を手

話や、字幕、口の動きと定義した。手話、口の動きを採用した理由は、聴覚障がい者の方は対面での会話時、これらによって内容を理解していると考えたからである。また字幕を採用した理由としては、映像を見るうえで最もメジャーな要素だと考えたからである。そして聴覚障がい者は口の動き、手話で内容を理解するという仮説を立てた。

### 2 調査方法

本研究は以下の3つの手順で行った。

- ・先行研究調査
- ・アンケート調査
- ・実験

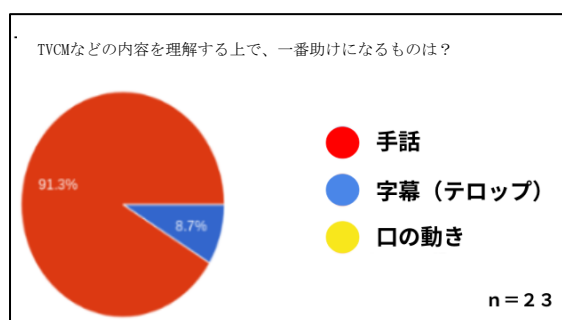
まず先行研究調査については、問いに関して類似した研究が見つからなかった。そこで、自分たちでアンケート調査を行い、Instagramやメールを用いて、聴覚障がい者団体とコンタクトを取り、アンケート対象とした聴覚障がい者の方に、各団体内でアンケート回答の呼びかけを行ってもらい回答を得た。また、回答者は全員聴覚障がい者である。次に、アンケート調査の結果を基に回答

が一番多かった字幕に着目し、字幕の字体に関して調査を進めた。

初めに行ったアンケート調査は「テレビ、CMの内容を理解する上で一番手助けになるものは？」という質問をし、手話、字幕（テロップ）、口の動きの3つの選択肢から1つ選択し回答してもらった。

### 3 アンケートの結果と考察

(図1)



回答件数は23件と少ないが、この結果からは字幕の回答率が91.3%と手話よりもかなりの優位性が見えた。

今回調べた要素の中で字幕の回答件数が一番多かった理由の考察として、聴覚障がい者の方には、先天性の方と、後天性の方が存在することや、手話にも複数の種類が存在したり、字幕は口の動きを読み取ったり、手話を読み取ったりするのに比べ、理解するのが容易である、などの理由があると考えた。

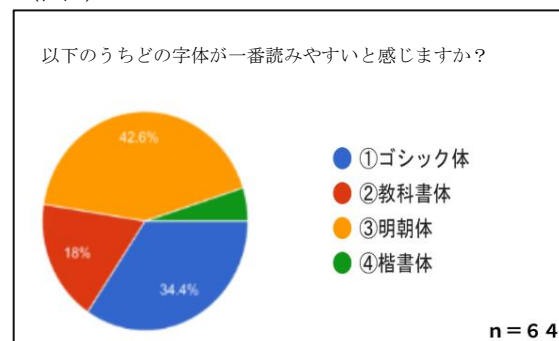
具体的に、聴覚障がい者の方は、生まれつき耳が完全に聞こえないろう者、音声言語を習得した後に、失聴した中途失聴者、完全に聴力を失ってはいないが、聞こえにくい難聴者、そして、年齢を重ねるごとに聴力が低下していく加齢性難聴者があり、それぞれの障害の種類によって、使用する音声言語が違い、手話の習得の有無も異なるということである。また、手話の種類には世界に400種類以上あると言われており国や地域によって使用種類が異なる。

### 4 実験の結果と考察

次に字幕の字体についての実験を武高

の2年生を対象に実施した。実験の方法としては、字幕付きの動画を見せて、アンケートに答えてもらうというものである。字幕は、私達に馴染み深いゴシック体、教科書体、明朝体、楷書体を使用した。

(図2)



回答件数は61件、明朝体が1番わかりやすく、続いて、ゴシック体2番目にわかりやすいという結果が得られた。

### 5 考察

映像と会話での内容理解に必要な要素は異なる。手話や読唇術は読み取る技術が必要であるが、字幕は見てわかるものであり、読み取る技術を必要としないため、最も理解に役立つと考える。よって、聴覚障害者にとって字幕が1番映像の内容理解の助けとなると考える。

### 6 結論

今回の研究からは、字幕が最も内容理解につながる映像の要素であり、中でも明朝体のものが読みやすく最良であるということがわかった。

### 7 今後の課題

- ・実際に聴覚障害者の方と会って話を聞く。
- ・実験において、理解しやすい要素の数によって理解度が異なるかを調べる。
- ・CMにおいて字幕以外に理解に最も繋がる要素はあるのか調べる。

### 8 参考文献

・厚生労働省（2018年4月9日）平成28年生 活のしづらさなどに関する調査[http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/seikatsu\\_chousa\\_c\\_h28.pdf](http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/seikatsu_chousa_c_h28.pdf) 2023年2月2日

・東京医療センター 慶應義塾大学医学部（2021年 3月25日）男女別・世代別の平均聴力を解明  
<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/files/2021/3/25/210325-1.pdf> 2023年2月2日

・三菱UFJリサーチ・コンサルティング（2021年9月）字幕と手話の視聴意向  
[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/b\\_free/pdf/120127\\_2.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/pdf/120127_2.pdf) 2023年2月2日

・株式会社電通（2015年3月）字幕付きCMあたりに対する評価、効果等に関する調査研究  
[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000372825.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000372825.pdf) 2023年2月2日

## 9 謝辞

本研究を行うにあたり、ご協力頂いた北信越ろう学生懇談会、熊本県ろう者福祉協会青年部、福島県聴覚障害協会青年部様、福岡県聴覚障害者協会青年部、一般社団法人陽けたら海へ、全日本ろう学生懇談会、関東ろう学生懇談会、福井県ろうあ協会、NPO法人福井県中途失聴・難聴者協会の計9団体の皆様にお礼申し上げます。